

中小企業診断士の視点

@にいがた

第52回

野球型組織からサッカー型組織へ

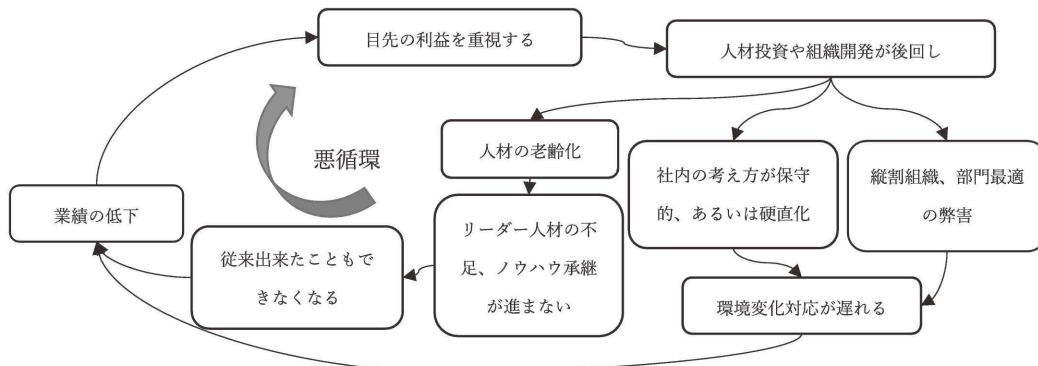


中小企業診断士 山崎 勝雄
(一社)新潟県中小企業診断士協会

新型コロナの流行は落ち着いてきましたが、相変わらずサプライチェーンの乱れがあったり、様々な需要の変化、エネルギー価格の上昇など、企業にとっては不連続で不確実さを増す環境になっています。環境変化の激しい時代では、狙っている市場の変更や社内資源の再配分を行わざるを得ないかもしれません。それに伴って、組織のあり方も変わらざるを得ないと思います。

こういう時代だからこそ「野球型組織からサッカー型組織へ」移行しないといけないと感じております。サッカーというスポーツは下記の特徴があります。

- ⚡監督さんは試合中には細かい指示は出せないなので戦術や戦略を選手に浸透させることが主たる役割である。 【戦略・戦術の理解と情報提供】
 - ⚡ゴールキーパーコーチ、トレーニングコーチなど専門家したコーチ陣が必須 【経営層のチーム化】
 - ⚡選手は、理解した戦略や戦術を元にしながらも相手の出方に対応しながらピッチ内で考えて行動する。 【現場での判断、権限委譲】
 - ⚡FW、MF等の主たる役割があるもののピンチになればFWでもゴール前で守るし、攻める時はDFでも攻めこむ。 【目的重視、V字人材、多能工、組織内の連携】
 - ⚡一旦試合が始まればほぼ監督の指示は通りにくいいため、ピッチ内のリーダーの力、各メンバーが能動的に考えて動く力が必須。 【リーダーや社員の能動性と実務的なリーダーシップ力】
 - ⚡攻める時も守る時も全員が一体として動かないといけない。 【密な組織内コミュニケーション】
 - ⚡攻める最前線と守る最後列との間をコンパクトに保たないといけない。 【トップと現場との情報伝達やフィードバックの速度の速さ、営業から製造までの密な連携】
 - ⚡サッカー強豪国ほど、世代にまたがった強化システムが確立されてきて、次々に人材が排出される。 【組織化された育成制度、中長期ビジョン】
 - ⚡国や人種にとらわれずチーム編成をする 【多様な人材の活用】
- 企業においては人材獲得と戦力化は最も重要だと多くの経営者はお話になりますが、それよりは目先の業績となっている企業が多い気がします。しかしながら、これは下記の悪順化を生み出し兼ねません。



DX（デジタルトランスフォーメーション）といった言葉が溢れていますが、人手不足になればなるほど人材と組織に関する重要性は一層増加していると思います。企業はヒト・モノ・カネと言われますが人材育成、組織風土や組織づくりは業績を支える基盤であるとも言えます。企業戦略に合わせて組織開発といった側面に再度目を向けることをお勧めいたします。

【問い合わせ先】

新潟県中小企業診断士協会
 ホームページ： <https://www.n-smeca.jp/>
 電話：025-378-4021
 Eメール：office@n-smeca.jp